

平成22年度 学校自主研修事業(特色ある学校づくり) 実施報告書

(宮城県塩釜) 高等学校 全日制

| | |
|-------------|---|
| <p>研修先</p> | <p>(1)横浜市立横浜商業高等学校・商業科および国際学科 (2)神奈川県立小田原総合ビジネス高等学校・総合ビジネス科</p> |
| <p>研修内容</p> | <p>横浜商業高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明治15年創設の127年の歴史を持つ商業高校 ○ 商業科6クラス 国際学科1クラスの7クラス ○ 国際学科は商業関連学科ではなく「その他の学科」に分類され、英語系大学への進学が中心となっている。 ○ 商業科でも約9割が進学であり、就職希望者は1割と少ない。そのため、就職内定率も毎年ほぼ100%である。また、卒業生を中心として企業との結びつきも強いとのことであり、就職先の開拓も容易である。 <p>小田原総合ビジネス高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成20年4月 小田原城東高等学校と湯河原高等学校が再編統合により開校 ○ 総合ビジネス科6クラス ○ 流通・会計・情報・国際・教養の5つの系列(類型)から科目選択ができ、各系列ごとに目標検定試験を設定している ○ 2年生夏休みに希望者を対象としたインターンシップを実施し、例年100名前後の生徒が参加している。また、参加生徒には1単位を認定している。 ○ 総合的学習の時間では「キャリア教育実践プログラム」を策定し各学年ごとに学習目標を設定して実施されている。 ○ H21年度の進路は就職36%, 進学50%未定14%であった ○ チャレンジショップ「Gestoreおだわら」を店舗経営同好会および1年生のビジネス基礎の授業で運営している。営業時間は16:00~17:30に小田原駅前銀座通り商店街で経営。全国の専門高校生が作った実習製品を仕入れ販売している。なお、空き店舗の賃借料¥720,000は神奈川県教委が負担。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○横浜商業高校における商業科の取り組みから進学希望者への対応を検討 卒業生の約9割が進学で、そのうち約100名は4年制大学への進学である。入学した生徒が必ずしも進学を希望していた訳ではなく、多くの生徒が高校で学ぶ中で進学を希望するようになったという話を聞き、本校(特にビジネス科)でも4年制大学への進学を含めて進学希望者への対応を早急に検討する。 ○横浜商業高校における国際学科の取り組みから国際感覚を身につけさせ、問題解決能力の育成とコミュニケーション能力の育成をはかる。 平成23年度より、ビジネス科において「英語実務」の履修を予定してる。内容は英会話を重視し、英語スピーチコンテスト等への参加を予定している。また、横浜商業高校では国連国際学校世界学生会議に生徒を派遣している他、横浜学生フォーラムを実施し、国内・国外からの学生を招待して討議を行っている。こうした活動を検討し、自ら企画運営を行い、課題を設定して多くの人たちとコミュニケーションをはかりながら問題を解決していく活動を検討し実施したい。 ○横浜商業高校における「イロハハハ計画」の取り組みから、シティセールス |

に関するプロモーションについて学ぶ機会を作りたい。

平成19年度まで同校で行われていた、「横浜イロハハハ計画」は横浜市のシティセールスを行い、関東地区に修学旅行を行っている全国各地の中学校を生徒自ら訪問して観光都市「横浜」の魅力を伝え、旅行者の増加を促す企画として実施された。この企画の実施過程では生徒が「調査・研究」「作品制作」「接客マナー」「コミュニケーション」「プレゼンテーション」など様々な学習を体験し、何より直接人との関わりを学べる点に学習の目標が置かれていたとのことである。

国際観光都市としての松島に隣接し、浦戸諸島や水産食品を中心として観光都市を目指す塩釜にあってシティセールスをはかり、自分たちの生活する町についても知ることが大切であるという事を体験させたいと考える。

○小田原総合ビジネス高校における店舗経営の取り組みから、校外販売実習について検討し、実施したい。

塩釜市内においても商店街の中に空き店舗があり、店舗経営に関する実習を計画したいと考える。具体的な実施方法・実施形態および経費等についてはまだ無いが、商工会議所や商店街等の関係者との連携を行いながら実施したい。

○小田原総合ビジネス高校におけるインターンシップ等に関する取り組みから、2学年におけるインターンシップについて検討し、実施したい。

平成22年度より、本校商業科3学年が塩釜市内および多賀城市、利府町の小売店舗において販売実習体験を行い、現場実習を体験することができた。今年度の実習は、3学年で履修している「総合実践」の授業の一環として実施したが、今年度入学生より学科改編に伴う教育課程の変更や男女共学化による進路先の多様化しているなど、多くの課題があり、それらの進路目標の達成やキャリア教育の指導重視の観点から2学年においてもインターンシップの実施について検討している。中でも希望者を対象にした内容ではあるが、多くの事業所で実習を行っている実態を視察し、本校においても実施して行きたいと考える。